

1-4 尾山台1・2丁目エリア～塀と緑～

尾山台駅と多摩川に囲まれ、高低差が激しい本エリアには、坂と緑が多く立地しているのが、景観の特徴です。明治時代につくられたエリアを南北に縦断する道路から、次第に細かい道へと枝分かれしており、坂という立地上、民家には目隠しの塀が多く存在しています。しかし、塀だけ目隠しするのではなく、緑を用いて敷地で差異がふちどれています。緑の連続性や緑と塀の繋がりが、本エリアにおける景観資源となっています。

景観特性



1. 坂の上にある緑の連続性



プライバシーを守るために住居に多くの緑が見られ、住居の中だけでなく、道に面する側にも緑が多く用いられています。坂の頂上から坂の下を見ると、眺望点にもなり、エリアの資源となっています。

2. 景観の強弱になる緑の点在性



住宅の前の花壇や玄関先の木など、少しの緑があることで、緑が点在する景観となっています。点在する緑が各家庭にあることは、エリア全体として見ても、緑の点在性が景観の特性になっています。

3. 民家を目隠しする塀



塀の活用により、隣の住宅や道路からプライバシーを守っている住宅が多く見られます。塀の上から緑を覗かせている住宅も多いです。目線より高い塀が多いエリアですが景観としては、まとまりのある住宅街となっています。

景観形成の目標

塀と緑で守られた、住みやすい住宅街の維持

本エリアは急峻な地形やプライバシー保護を目的とした塀と緑、景観に配慮された多様な緑が特徴となっている。本ガイドラインではこの景観の多様性を保全し、さらに引き出すための整備を行うことを目的とする。

景観形成の方針

1. エリア全体の多様な緑の維持

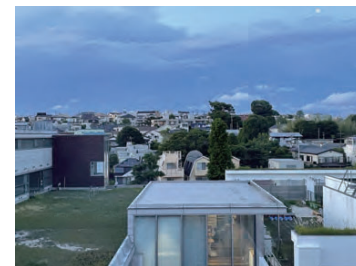
1-1. エリア内の連続した緑の維持

景観形成の考え方

連続した緑によってもたらされる隣家との一体感を維持する。

具体的な方策

- フェンスを設置する際に緑も一緒に設置するよう心掛けてもらう。
- 現在、寺や神社に存在する連続する緑を意識した景観づくりをしてもらう。
- 緑の維持を住民同士が積極的に行うよう、コミュニケーションを増やすようなきっかけをつくる。



大学から見た住宅街と緑が連続している様子

1-2. エリア内の点在した緑の維持

景観形成の考え方

点在した緑によって形成される尾山台1・2丁目独自の景観を守る。

具体的な方策

- 景観を維持してもらうため、フェンスのみならず、各家庭の玄関先にもシンボルツリーとなる緑を設置してもらう。
- 住宅の道路に面する側には緑の設置を推奨する。



点在している緑の要素の一つ 花壇の写真

2. 住民のプライバシーを守る、背の高い塀と緑の保全

景観形成の考え方

塀と緑を調和させ、こじんまりとした景観形成を図る。

具体的な方策

- 地区計画で塀をつけるときのルールの周知。
(0.6m以上の塀をつけるときにはフェンスを緑化する)
- 良好な都市景観をつくるため、周囲に合わせた緑の設置を促す。
- 現在、私有地に存在する緑を減らさない。
- 私有地の緑を守るため協力金の配当を行う。



緑と塀によってプライバシーが守られている街

3. このエリアの特性同士の交わり

本エリアにおける様々な特性が交わって見られる点が景観形成上の特性だと考えられます。その為、そういった面が現れている場所を維持していくべき場所と考え、以下に紹介します。

3-1. 緑の連続性と点在性の交わり



写真A: 道が交わる場所では、連続と点在の両方を見ることができます。



写真B: 道路の左右において、連続している緑と点在している緑の両面を見ることができます。

3-2. 緑の連続性と塀の交わり



写真C: 高い木が何本も植えられていることで緑の景観が維持されて、良い眺望のひとつとなっています。



写真D: 十字路に面する住宅においては、高く緑に覆われて目隠しされています。

3-3. 緑の点在性と塀の交わり



写真E: 塀だけでなく緑が少しある事により閉鎖的でなく彩りあふれる景観となっています。



写真F: 塀の素材に工夫がされており、緑と交わる事で特性ある景観となっています。